

# 簿記・会計

(全問必答)

第1問 次の問い(A・B)に答えよ。〔解答記号  ~  〕(配点 40)

A  は、個人企業である東京商店(決算は年1回、決算日は12月31日)における平成×5年の総勘定元帳のすべての勘定の前期繰越高、 は総勘定元帳の一部、 は仕訳帳の一部である。

これらの資料にもとづいて、17ページから19ページの問い(問1~6)に答えよ。ただし、金額の単位はすべて万円である。なお、( )は各自で考えること。

総勘定元帳のすべての勘定の前期繰越高

現金 ¥ 150    売掛金 ¥ 350    商品 ¥ 200    備品 ¥ 320  
買掛金 ¥ ( )    借入金 ¥ 250    資本金 ¥ 500

総勘定元帳の一部

商 品			買 掛 金		
3			5		
1/1 前期繰越	200	現金	240	現金	450
買掛金	500	売掛金	270	12/31 次期繰越	( )
		12/31 次期繰越	190	( )	( )
	<u>700</u>		<u>700</u>		<u>500</u>
					<u>( )</u>

  

資 本 金			商品売買益		
7			8		
12/31 ( ) ( )	( )	1/1 前期繰越	500	( ) ( )	340
" 次期繰越	520	現金	100		現金
	<u>600</u>		<u>600</u>		売掛金
					<u>180</u>
					<u>340</u>

(注) 日付欄の記載がない記入は、同じ種類の取引を合計額で示したものである。また、太字は赤字記入を意味する。

## 資料3 仕訳帳の一部

		仕 訳 帳		元	借 方	貸 方
平	成	摘	要	丁		
×	年					
1	1	前期繰越高		✓	1,020	1,020
11	1	(買掛金)	(現金)	イ 1	40	40
					3,980	3,980
12	31	決算仕訳 (減価償却費)	(備品)	12 4	90	90
"	"	諸口(損益)		14		( )
		(商品売買益)		8	340	
		(受取手数料)		9	( )	
"	"	(損益)	諸口	14	470	
			(給料)	10		240
			(支払家賃)	11		120
			(減価償却費)	12		90
			(支払利息)	13		20
"	"	( )	( )	( )	( )	( )
					1,030	1,030

(注) 小書きは省略してある。

問1 資料2・資料3の総勘定元帳および仕訳帳についての説明として、誤っているものを、次の解答群のうちから一つ選べ。 **ア**

**ア**の解答群

- ① 仕訳帳には、すべての簿記上の取引が発生した順に記入される。
- ② 総勘定元帳を主要簿、仕訳帳を補助簿という。
- ③ 仕訳帳の記入にもとづいて総勘定元帳の勘定口座に記入する手続きを転記という。
- ④ 総勘定元帳は、すべての勘定口座を集めた帳簿である。

## 簿記・会計

問 2 11月1日、神奈川商店に対する買掛金¥40を現金で支払った。この取引について、次の(1)・(2)に答えよ。

(1) 買掛金元帳に設けられた神奈川商店勘定の勘定口座のページ数が2ページである場合、資料3の仕訳帳の空欄イにあてはまるものを、次の解答群のうちから一つ選べ。

イの解答群

①	✓	②	5	③	5/買2	④	買2
---	---	---	---	---	------	---	----

(2) 買掛金勘定のように、買掛金元帳の記入内容をまとめて示し、記録の照合ができる勘定を、ウ勘定という。空欄ウにあてはまるものを、次の解答群のうちから一つ選べ。

ウの解答群

①	集	合	②	人	名	③	対	照	④	統	制
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問 3 資料3の決算仕訳のうち、 で囲まれた仕訳をエ仕訳という。空欄エにあてはまるものを、次の解答群のうちから一つ選べ。

エの解答群

①	決	算	整	理	②	合	計	③	訂	正	④	振	替
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問 4 決算本手続きにおいて、資産・負債・資本の各勘定を締め切った後、これらの勘定の期末残高を集計して、決算手続きが正しく行われたかを確認するために作成される表を、**オ** という。空欄 **オ** にあてはまるものを、次の解答群のうちから一つ選べ。

**オ** の解答群

- ① 繰越試算表 ② 精算表 ③ 損益計算書 ④ 貸借対照表

問 5 東京商店は、商品売買を分記法で記帳している。東京商店が、商品売買を分記法ではなく3分法で記帳していたとすれば、商品売買取引によって生じた当期の収益の総額(受取手数料を除く)は、¥ **カ** **キ** 0 となる。ただし、当期に仕入戻しおよび仕入値引きはなかった。空欄 **カ** ・ **キ** にあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

問 6 **資料1** ~ **資料3** にもとづいて、次の(1)~(4)の空欄 **ク** ~ **サ** にあてはまるものを、下の解答群のうちから一つずつ選べ。

- (1) 期首の負債の総額は、¥ **ク** である。  
 (2) 当期の決算予備手続きにおいて作成される合計試算表の貸借の合計額は、¥ **ケ** で一致する。  
 (3) 当期の費用総額は、¥ **コ** である。  
 (4) 資本金勘定の記録にもとづいて当期純( )を計算すると、¥ **サ** になる。

**ク** ~ **サ** の解答群

- |   |       |   |       |   |       |   |       |   |       |
|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|
| ① | 20    | ② | 80    | ③ | 250   | ④ | 270   | ⑤ | 470   |
| ⑥ | 520   | ⑦ | 560   | ⑧ | 570   | ⑨ | 1,020 | ⑩ | 1,030 |
| ⑪ | 2,960 | ⑫ | 3,980 | ⑬ | 5,010 |   |       |   |       |

## 簿記・会計

**B** 個人企業である兵庫商店(決算は年1回、決算日は12月31日)は、5伝票制(商品売買取引はすべていったん掛け取引として処理し、一部現金の収支をともなう取引については、現金取引とそれ以外の取引に分けて別々に起票する方法による)を採用している。同商店は、取引銀行と200千円を借越限度額とする当座借越契約を結んでおり、平成×5年2月末日現在60千円の当座預金残高がある。

**資料1** は平成×5年3月1日から15日までのすべての取引(簿記上の取引でないものも含む)、**資料2** は同期間に起票された伝票(略式)の一部である。

これらの資料にもとづいて、22ページから23ページの問い(問1～6)に答えよ。ただし、金額の単位はすべて千円である。なお、( )は各自で考えること。

**資料1** 平成×5年3月1日から15日までのすべての取引(簿記上の取引でないものも含む)

- 1日：滋賀商店に商品¥150を仕入れる注文をし、その内金として¥30を小切手を振り出して支払った。
- 2日：奈良商店に商品¥50を仕入れる注文をした。
- 3日：奈良商店に対する買掛金¥20を約束手形を振り出して支払った。
- 5日：古雑誌などの不用品を売却し、代金¥10は月末に受け取ることにした。
- 6日：三重商店に商品を売り渡し、代金¥80のうち¥30は同店振り出しの小切手で受け取り、残額は同店振り出しの約束手形で受け取った。
- 7日：京都商店に対する買掛金¥80を小切手を振り出して支払った。
- 8日：岡山商店に商品を売り渡し、代金¥100は掛けとした。
- 11日：備品¥180(帳簿価額)が盗難にあった。
- 12日：広島商店に商品を売り渡し、代金¥60は現金で受け取った。
- 13日：大阪商店から業務用のパソコン¥300を購入し、代金のうち¥100は現金で支払い、残額は月末に支払うことにした。
- 14日：現金¥120を当座預金に預け入れた。
- 15日：**ナ**

資料2 平成×5年3月1日から15日までに起票された伝票(略式)の一部

<u>振替伝票(借方)</u>	<u>振替伝票(貸方)</u>
3月1日	3月1日
ツ 30	当座預金 30

<u>( )</u>
3月6日
三重商店 80

<u>チ</u>
3月6日
売掛金 30 (三重商店)

<u>振替伝票(借方)</u>
3月6日
受取手形 50

<u>振替伝票(貸方)</u>
3月6日
売掛金 50 (三重商店)

<u>振替伝票(借方)</u>	<u>振替伝票(貸方)</u>
3月7日	3月7日
買掛金 30 (京都商店)	当座預金 30

<u>振替伝票(借方)</u>
3月7日
買掛金 50 (京都商店)

<u>振替伝票(貸方)</u>
3月7日
テ 50

<u>( )</u>
3月13日
備品 100

<u>振替伝票(借方)</u>
3月13日
備品 200

<u>振替伝票(貸方)</u>
3月13日
ト 200

<u>( )</u>
3月14日
テ 50

<u>( )</u>
3月14日
当座預金 70

<u>仕入伝票</u>
3月15日
京都商店 50

<u>振替伝票(借方)</u>
3月15日
買掛金 30 (京都商店)

<u>振替伝票(貸方)</u>
3月15日
売掛金 30 (鳥取商店)

## 簿記・会計

問 1 **資料 1** の 3 月 1 日から 14 日までのすべての取引のうち、簿記上の取引でないものは **シ** つある。空欄 **シ** にあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

問 2 次の(1)・(2)のそれぞれは、**資料 1** に示されている 3 月 3 日と 5 日の取引要素の結合関係を示したものである。次の空欄 **ス** ~ **タ** にあてはまるものを、下の解答群のうちから一つずつ選べ。

	(借方要素)		(貸方要素)
(1) 3 月 3 日の取引			
取引要素の結合関係	ス	—————	セ
(2) 3 月 5 日の取引			
取引要素の結合関係	ソ	—————	タ

**ス** ~ **タ** の解答群

④ 資産の増加	① 資産の減少	② 負債の増加	③ 負債の減少
④ 資本の増加	⑤ 資本の減少	⑥ 収益の発生	⑦ 費用の発生

問 3 **資料 2** の空欄 **チ** にあてはまる伝票の名称を、次の解答群のうちから一つ選べ。

**チ** の解答群

④ 入金伝票	① 出金伝票	② 仕入伝票	③ 売上伝票
--------	--------	--------	--------

問 4 **資料 2** の空欄 **ツ** ~ **ト** にあてはまる勘定科目を、次の解答群のうちから一つずつ選べ。

**ツ** ~ **ト** の解答群

④ 仮払金	① 未収金	② 当座	③ 預り金
④ 前払金	⑤ 仮受金	⑥ 当座借越	⑦ 立替金
⑧ 当座預金	⑨ 未払金	⑩ 手形借入金	⑪ 前受金

問 5 資料 2 にもとづいて、資料 1 の空欄 ナ にあてはまる取引を、次の解答群のうちから一つ選べ。なお、3月15日に起票された伝票は、資料 2 に示されたもの以外にはない。

ナ の解答群

- ① 京都商店から商品¥50を仕入れ、代金の一部は売掛金のある得意先鳥取商店あての為替手形を、同店の引き受けを得て、京都商店に振り出し、残額は掛けとした。
- ② 京都商店から商品¥50を仕入れ、代金は、さきに鳥取商店から受け取った約束手形を裏書譲渡した。
- ③ 京都商店から商品¥50を仕入れ、代金の一部は、さきに鳥取商店から受け取った約束手形を裏書譲渡し、残額は掛けとした。
- ④ 京都商店から商品¥50を仕入れ、代金は売掛金のある得意先鳥取商店あての為替手形を、同店の引き受けを得て、京都商店に振り出した。

問 6 次の(1)・(2)の空欄 二 ・ 又 にあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

- (1) 3月1日から14日までの取引で起票された出金伝票は 二 枚ある。
- (2) 3月1日から14日までの取引で起票された売上伝票は 又 枚ある。



## 簿記・会計

**第2問** **資料1** は個人企業である青森商店(決算は年1回、決算日は12月31日)の平成×5年12月21日から12月31日までのすべての期中取引、**資料2** は総勘定元帳の一部、**資料3** は未記帳事項および決算整理事項、**資料4** は精算表である。これらの資料にもとづいて、28ページの問い(問1～3)に答えよ。ただし、青森商店は、引出金勘定を用いていない。なお、金額の単位はすべて万円である。また、( )は各自で考えること。〔解答記号 **ア** ～ **ハ** 〕(配点 30)

**資料1** 平成×5年12月21日から12月31日までのすべての期中取引

- 21日：試用品勘定の残高¥**アイ**について、¥15だけ買い取るむねの通知を受け、残りは返品された。
- 22日：かねて山形商店に注文していた商品¥25について、¥20の荷付為替手形を取引銀行から呈示されたので、引き受けをして、貨物代表証券を受け取った。なお、残額は掛けとした。
- 23日：秋田商店に商品の販売を委託し、商品¥16を送付した。
- 24日：事業主が原価¥5の商品を私用にあてた。
- 25日：岩手商店に商品を¥20で売り渡し、さきに受け取っていた内金¥8を差し引き、残額は掛けとした。
- 28日：22日に受け取った貨物代表証券と引き換えに商品を受け取った。
- 30日：23日に送付した商品について、次の売上計算書とともに手取金を秋田商店振り出しの小切手で受け取った。なお、青森商店では、売り上げを手取金額で計上している。

売上計算書		
総売上高		¥ 20
諸掛		
保管料	¥ 1	
手数料	1	2
差引手取金		<u>¥ 18</u>

資料2 総勘定元帳の一部(日付欄の記載がない金額は、平成×5年12月20日までの記録を合計額で示したものである)

買 掛 金			
	993		1,070
		12/22	ウ ( )
売 上			
	45		1,930
		12/21 ( )	15
		25	工 ( )
		30	現金 ( )
仕 入			
	1,500		28
12/28 ( )	25	12/23	才 16
30	16	24	力 5
試用仮売上			
	62		90
12/21 ( ) ( )			

## 簿記・会計

### 資料3 未記帳事項および決算整理事項

- 1 決算整理に先立ち、次の(1)～(3)の未記帳事項が判明した(残高試算表には反映されていないため、すべて整理記入欄に記入する)。
  - (1) 12月18日に、原価¥14の貨物代表証券を¥20で売り上げ、代金は掛けとした。この取引が未記帳であった。
  - (2) 現金の実際有高が、帳簿残高と一致しなかった。その原因を調査したところ、立替金の受け取り¥3が記帳されていなかったことが判明した。残額の原因は不明であった。
  - (3) 不渡手形¥6は、その全額が回収できなくなったので、貸し倒れとして処理する。なお、この手形は前期中に受け取ったものが、当期中に不渡りになったものであり、前期末に貸倒引当金を設定している。
- 2 期末商品棚卸高は、¥135である。
- 3 受取手形および売掛金の期末残高に対して、4%の貸し倒れを見積もる。なお、貸倒引当金の設定は、差額を計上する方法(差額補充法)による。
- 4 備品は、すべて平成×3年1月1日に取得したものである。なお、定額法(残存価額は取得原価の10%、耐用年数は6年)で減価償却を行っており、每期継続して同じ計算方法を用いている。
- 5 有価証券は、すべて売買目的で保有する株式である。決算日の時価は¥63である。
- 6 家賃は、毎年4月1日に1年分を前払いしている。なお、当期に家賃の見直しは行われていない。
- 7 借入金は、すべて平成×4年9月1日に年3%の利息(借入期間2年、利払日は2月末日と8月末日)で借り入れたものである。

## 資料4 精算表

精 算 表  
平成×5年12月31日

勘定科目	残高試算表		整理記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	147						154	
当座預金	181						181	
受取手形	( )						㊦	
不渡手形	6							
売掛金	120						( )	
貸倒引当金		5						8
有価証券	84						63	
繰越商品	118						135	
未着商品	14							
立替金	12						( )	
備品	320						320	
備品減価償却累計額		( )						㊦
支払手形		59						59
買掛金		㊦						( )
借入金		200						200
資本金		500						500
売上		1,㊦				( )		
仕入	1,492				1,㊦			
給料	232				232			
支払家賃	90				( )			
支払利息	4				㊦			
	( )	( )						
雑益							㊦	
貸倒償却					㊦			
減価償却費					( )			
有価証券評価損					㊦			
前払家賃							㊦	
未払利息								( )
当期純利益					85			85
					( )	( )	( )	( )

(注) 整理記入欄への記入は省略してある。また、太字は赤字記入を意味する。

## 簿記・会計

問 1 資料 1 ・ 資料 2 にもとづいて、資料 1 の空欄 ア ・ イ  
にあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

問 2 資料 1 にもとづいて、資料 2 の空欄 ウ ～ カ にあてはまる  
ものを、次の解答群のうちから一つずつ選べ。

ウ ～ カ の解答群

㉠ 諸 口	① 売 掛 金	② 積 送 品	③ 未 着 商 品
④ 未 収 金	⑤ 前 受 金	⑥ 売 上	⑦ 営 業 費
⑧ 雑 損	⑨ 資 本 金	㉡ 支 払 手 形	㉢ 仕 入

問 3 資料 4 の空欄 キ ～ ハ にあてはまる数字を、解答用紙の解答  
欄にマークせよ。

## 簿記・会計

**第3問** 個人企業である山梨商店(決算は年1回、決算日は12月31日)には支店が一つあり、支店の会計は本店の会計から独立している。なお、本店では複合仕訳帳制度を採用しており、普通仕訳帳のほかに、現金出納帳、当座預金出納帳および売上帳を特殊仕訳帳として用いている。特殊仕訳帳から総勘定元帳への合計転記は、普通仕訳帳をとおさず、毎月末に行っている。また、補助簿として売掛金元帳および受取手形記入帳を用いている。

次の **資料1** ~ **資料4** にもとづいて、34ページの問い(問1~5)に答えよ。ただし、1月末時点で本支店間の取引は、本支店両方ですべて記帳されている。なお、金額の単位はすべて千円である。また、( )は各自で考えること。

[解答記号 **ア** ~ **ニ**] (配点 30)

**資料1** 平成×5年1月中の支店における本店とのすべての取引と仕訳

2日：支店の買掛金¥400を、本店が前期中に支払ったむねの連絡を受けた。

(借) **ア** 400 (貸) ( ) 400

7日：本店で使用する消耗品¥10を現金で購入し、そのむねを本店に連絡した。

(借) ( ) 10 (貸) ( ) 10

9日：本店に商品¥870(原価)を送付した。

(借) ( ) 870 (貸) **イ** 870

13日：本店に現金¥120を送った。

(借) ( ) 120 (貸) ( ) 120

15日：支店の従業員の給料¥170を、本店が立て替え払いしたむねの連絡を受けた。

(借) ( ) 170 (貸) ( ) 170

26日：支店の家賃¥310を、本店が立て替え払いしたむねの連絡を受けた。

(借) ( ) 310 (貸) ( ) 310

31日：支店の広告料¥100を、本店が立て替え払いしたむねの連絡を受けた。

(借) ( ) 100 (貸) ( ) 100

## 資料 2 1 月中の本店の普通仕訳帳および特殊仕訳帳

## (1) 普通仕訳帳(開始記入を除く)

## 普通仕訳帳

平成 ×5年	摘要	元 丁	借方	貸方
1	1 ( ) (消耗品) 再振替	—	3	3
7	(ウ) ( ) 支店立て替えにより消耗品購入	省	10	10
9	( ) ( ) 支店より商品受取	略	870	870
17	(手形売却損) (受取手形) 約手#4 割引	略	4	4
"	(保証債務費用) ( ) 約手#4 保証債務	略	9	9
30	( ) (売掛金) 売掛金回収	—	450	450

## (2) 特殊仕訳帳(太字は赤字記入を意味する)

## 現金出納帳

平成 ×5年	勘定科目	摘要	元 丁	金額	平成 ×5年	勘定科目	摘要	元 丁	金額	
1	13	<b>工</b> ( )	—	120	1	14	当座預金	預け入れ	—	260
	25	売上	省	270		18	通信費	本月分	省	34
			略			26	( )	( )	略	310
	31	入金合計	略	390		31	出金合計	略	略	604
		前月繰越	—	490			次月繰越	—	—	276
				880						880

簿記・会計

当座預金出納帳

平成 ×5年	勘定科目	摘要	元 丁	売掛金	諸口	平成 ×5年	勘定科目	摘要	元 丁	支店	諸口
1	14	才	預け入れ	( )	( )	1	15	( )	支店給料	170	( )
	17	受取手形	約手割引		356		18	給料	本月分		320
	26	売掛金	千葉商店	㊦㊦0			21	支払家賃	本月分		( )
	30	売掛金	長野商店	240			31	( )	支店広告料	( )	( )
				( )	( )					( )	( )
	31		売掛金		( )				支店		( )
	"		預入合計		( )				引出合計		710
			前月繰越		( )				次月繰越		466
					1,176						1,176

(注) 本店では、支店との取引において小切手がひんぱんに振り出されることから、当座預金出納帳に「支店」の特別の欄(特別欄)を設けている。

売 上 帳

平成 ×5年	勘定科目	摘要	元 丁	売掛金	諸口
1	10	売掛金	長野商店	( )	
	11	売掛金	長野商店・値引き	20	
	16	( )	新潟商店		㊦㊦0
	25	現金	埼玉商店		270
	28	売掛金	群馬商店	( )	
				㊦㊦0	( )
	31		売掛金		㊦㊦0
	"		( )		( )
	"		( )		( )
			( )		1,440



資料3 平成×5年1月の本店の総勘定元帳の一部

売掛金				支店			
4				20			
1/1 前期繰越	1,170	1/30( )	シズ0	1/1 前期繰越	590	1/7( )	10
31 売上帳 ( )		31 当座預金出納帳	400	26 現金出納帳	310	9	子 870
		" ( )	セ0	31( )	ツタ0	13( )	120

資料4 平成×5年1月の本店の補助簿

(1) 売掛金元帳

群馬商店				長野商店			
1				2			
1/1 前月繰越	580	1/30( ) ( )		1/1 前月繰越	430	1/11( )	20
28 売り上げ	540			10 売り上げ	290	30( )	240

  

千葉商店			
3			
1/1 前月繰越	160	1/26( )	160

(2) 受取手形記入帳

受取手形記入帳

平成 ×5年	摘要	金額	手形 種類	手形 番号	支払人	振出人 または 裏書人	振出日		満期日		支払 場所	てん末		
							月	日	月	日		月	日	摘要
1	16	( )	約手	4	富山商店	新潟商店	1	10	2	10	(省略)	1	17	割引
	30	( )	"	8	群馬商店	群馬商店	1	30	3	30	(省略)			

## 簿記・会計

問 1 空欄  ～ ,  にあてはまるものを, 次の解答群のうちから一つずつ選べ。ただし, 同じものを繰り返し選んでもよい。

～ ,  の解答群

① 借入金	② 支店	③ 現金	④ 売上
⑤ 貸付金	⑥ 本店	⑦ 繰越商品	⑧ 買掛金
⑨ 当座預金	⑩ 仕入	⑪ 消耗品費	⑫ 売掛金
⑬ 消耗品	⑭ 現金出納帳		

問 2 空欄  ～  にあてはまる数字を, 解答用紙の解答欄にマークせよ。

問 3 1月の本店の取引のうち, 一つの取引が二つの特殊仕訳帳に記入される取引の合計金額は, ¥   0 である。空欄  ・  にあてはまる数字を, 解答用紙の解答欄にマークせよ。

問 4 2月10日に本店は, 1月17日に割り引いた約束手形#4が決済されたむねの連絡を受け, 次の仕訳を行った。空欄  にあてはまる勘定科目を, 下の解答群のうちから一つ選べ。

(借)  9 (貸) ( ) 9

の解答群

① 保証債務	② 保証債務費用	③ 保証債務取崩益	④ 受取手形
--------	----------	-----------	--------

問 5 支店における本店勘定の前期末残高は ¥   0 である。空欄  ・  にあてはまる数字を, 解答用紙の解答欄にマークせよ。